

# 令和4年度入学生用カリキュラムマップ

【心理・社会福祉学科】

【1年共通 心理】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号													
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性							
1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3							
22UPWC1011	初期演習 I	1	本学で修得すべきことは何かを理解し、主体的に学び新たな発見を導きだせる力を身につけることを目的とする。このため、本学の「立学の精神」「教育目標」を知り、本学学生としての誇りと自覚を持つ。さらに、主体性・論理性・実行力を培い、女性として有為な社会人となるために、それぞれの学部学科の専門性に基づく知識と社会人基礎力の修得の必要性を理解し、各自のキャリアデザインを自ら構築する。	大学の修学の基礎となる単位制を理解し、適切な履修計画に沿って修学する主体性、考える力を身につけ、所属学科の3つのポリシーに基づく専門教育の概要を把握し、自らのキャリアデザインを組み立てる力を身につける。また、良識ある社会人となるための社会人基礎力の必要性を理解し、その基盤となる十分なコミュニケーション能力を培い、基本的な社会ルールを理解し、本学学生としての誇りと自覚を身につける。さらに、学習・研究を進める上での倫理の基礎となる情報の取り扱いに関する知識を身につける。							○	○	◎	◎	○	◎	◎	
22UPWC1021	初期演習II（心理・社会福祉）	1	「初期演習II（心理・社会福祉）」の目的は、「初期演習I」で培った力をさらに発展させ、学院の教育理念、立学の精神に基づいた、本学学生としての誇りと自覚を持ち、大学生にふさわしい主体性・論理性・実行力を培う。講義の中で、本を読む、文章を書くなど、大学生の基礎的な能力を養うとともに、学生および教員との人間関係の基礎を身につける。このような講義を実施し、文学部心理・社会福祉学科の教育目標を達成するように導く。	1. 「立学の精神」、それに基づく「教育目標」、「教育推進宣言」、学院の歴史について理解する。 2. 主体的に学び、実践する姿勢を身につけ、積極的に意見を発表・伝達するために、本を読み、自ら考え、文章に表現するなどの基礎的な能力を養う。 3. 学生相互や担任教員との豊かで円滑な人間関係の基礎を築く。 4. 女性として社会で活躍するための、キャリア形成の基礎を身につける。							○	○	◎	◎	○	◎	◎	
22UPWC1031	心理学概論 A	1	対人援助を支える科学としての心理学について、基本的な考え方や方法論を理解することを目的とする。特に、心理学における人の理解とそのための技法の基礎、人の成長・発達と心理との関係、日常生活と心の健康について、理解を深化させる。	1. 心理学の成り立ちについて概説できる。 2. 人の心の基本的な仕組みおよび働きについて概説できる。 3. 心理学の基礎的な概念・用語・研究結果を理解し、日常生活の身近な出来事と関連づけることができる。	◎											○		
22UPWC1041	心理学概論 B	1	対人援助を支える科学としての心理学について、基本的な考え方や方法論を理解することを目的とする。特に、心理学における人の理解とそのための技法の基礎、人の成長・発達と心理との関係、日常生活と心の健康について、理解を深化させる。	1. 心理学の成り立ちについて概説できる。 2. 人の心の基本的な仕組みおよび働きについて概説できる。 3. 心理学の基礎的な概念・用語・研究結果を理解し、日常生活の身近な出来事と関連づけることができる。	◎											○		○



科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号															
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1. 知識・理解		2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性							
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3				
22UPWC3023	関係行政論	3	心理・社会福祉に関する支援を求められる分野における法律、制度を理解する。	1. 保健医療分野に関係のある法律、制度について概説できる。 2. 福祉分野に関係のある法律、制度について概説できる。 3. 教育分野に関係のある法律、制度について概説できる。 4. 司法・犯罪分野に関係のある法律、制度について概説できる。 5. 産業・労働分野に関係のある法律、制度について概説できる。	◎	◎	○			○	○	○								
22UPWC1081	情報リテラシー	1	大学教育に適応し、安全で適切な情報活用ができるための基礎的な情報リテラシーを身につける。コンピュータやネットワークの知識、情報モラルの知識と実践力を育成するとともにオフィスソフトの活用をもとにしたレポート作成の基礎的な技能を確実に習得する。	1. 本学のシステムやオンラインサービスを知り、使いこなすことができる。 2. 基礎的なコンピュータやネットワークに関する知識、情報モラルに関する知識をもち、場面に応じて安全にコンピュータやネットワークを活用することができる。 3. レポートを作成するために必要なソフトの活用技能を習得し、課題に応じた簡単なレポート作成ができる。									◎							
22UPWC1091	英語 I	1	基本的な文法事項を確認し、「読む」スキルおよび「書く」スキルを中心に身につける。	1. 基礎的な文法事項を理解できる。 2. 英文の内容を正しく読み取ることができ、日本語に訳すことができる。							◎									
22UPWC1101	英語 II	1	基本的な文法事項を確認し、「読む」スキルおよび「書く」スキルを中心に身につける。	1. 基礎的な文法事項を理解できる。 2. 英文の内容を正しく読み取ることができ、日本語に訳すことができる。							◎									
22UPWC1113	Oral Communication I	1	「英文法はある程度わかっている、いざとなると英語が話せない」という人は多い。本授業では、英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認し、実際に「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を養う。	1. 英語の基礎文法や語彙を理解する。 2. 基本的な英語会話ができる。							◎									
22UPWC1123	Oral Communication II	1	「英文法はある程度わかっている、いざとなると英語が話せない」という人は多い。本授業では、英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認し、実際に「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を養う。	1. 英語の基礎文法や語彙を理解する。 2. さまざまな場面での基本的な会話ができる。							◎									
22UPWC1133	心理学研究法	1	心理学研究の基本的な論理、プロセス、および研究アプローチについて理解する。	1. 心理学を研究する上での心構えを身につける。 2. 心理学の研究を実施する際に、最低限知っておく必要のある知識やテクニックを身につける。 3. 心理学における質的研究および量的研究を含む実証的研究法について概説できる。 4. データを用いた実証的な思考方法を修得している。 5. 心理学研究における研究倫理について理解している。	◎		○													
22UPWC1143	臨床心理学概論	1	臨床心理学とは何かについて、基本的なものの見方、考え方を理解することを目的とする。臨床心理学の代表的な理論を学ぶとともに、さまざまな臨床領域で実践されている心理的援助についても学ぶ。	1. 臨床心理学の基礎的な知識を身につけることを目的とする。 2. 臨床心理学の代表的な理論と具体的な援助方法を学ぶ。 3. 臨床心理学の成り立ちについて概説できる。	◎		○							○	○					







# 令和4年度入学生用カリキュラムマップ

【心理・社会福祉学科】

【1年共通 社会福祉】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																				
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																				
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性														
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3										
22UPWC1011	初期演習 I	1	本学で修得すべきことは何かを理解し、主体的に学び新たな発見を導きだせる力を身につけることを目的とする。このため、本学の「立学の精神」「教育目標」を知り、本学学生としての誇りと自覚を持つ。さらに、主体性・論理性・実行力を培い、女性として有為な社会人となるために、それぞれの学部学科の専門性に基づく知識と社会人基礎力の必要性を理解し、各自のキャリアデザインを自ら構築する。	大学の修学の基礎となる単位制を理解し、適切な履修計画に沿って修学する主体性、考える力を身につけ、所属学科の3つのポリシーに基づく専門教育の概要を把握し、自らのキャリアデザインを組み立てる力を身につける。また、良識ある社会人となるための社会人基礎力の必要性を理解し、その基盤となる十分なコミュニケーション能力を培い、基本的な社会ルールを理解し、本学学生としての誇りと自覚を身につける。さらに、学習・研究を進める上での倫理の基礎となる情報の取り扱いに関する知識を身につける。													○	○	◎	◎	○	◎	◎		
22UPWC1021	初期演習II (心理・社会福祉)	1	「初期演習II (心理・社会福祉)」の目的は、「初期演習I」で培った力をさらに発展させ、学院の教育理念、立学の精神に基づいた、本学学生としての誇りと自覚を持ち、大学生にふさわしい主体性・論理性・実行力を培う。講義の中で、本を読む、文章を書くなど、大学生の基礎的な能力を養うとともに、学生および教員との人間関係の基礎を身につける。このような講義を実施し、文学部心理・社会福祉学科の教育目標を達成するように導く。	1. 「立学の精神」、それに基づく「教育目標」、「教育推進宣言」、学院の歴史について理解する。 2. 主体的に学び、実践する姿勢を身につけ、積極的に意見を発表・伝達するために、本を読み、自ら考え、文章に表現するなどの基礎的な能力を養う。 3. 学生相互や担任教員との豊かで円滑な人間関係の基礎を築く。 4. 女性として社会で活躍するための、キャリア形成の基礎を身につける。															○	○	◎	◎	○	◎	◎
22UPWC1031	心理学概論 A	1	対人援助を支える科学としての心理学について、基本的な考え方と方法論を理解することを目的とする。特に、心理学における人の理解とそのための技法の基礎、人の成長・発達と心理との関係、日常生活と心の健康について、理解を深化させる。	1. 心理学の成り立ちについて概説できる。 2. 人の心の基本的な仕組みおよび働きについて概説できる。 3. 心理学の基礎的な概念・用語・研究結果を理解し、日常生活の身近な出来事と関連づけることができる。	◎																		○		
22UPWC1041	心理学概論 B	1	対人援助を支える科学としての心理学について、基本的な考え方と方法論を理解することを目的とする。特に、心理学における人の理解とそのための技法の基礎、人の成長・発達と心理との関係、日常生活と心の健康について、理解を深化させる。	1. 心理学の成り立ちについて概説できる。 2. 人の心の基本的な仕組みおよび働きについて概説できる。 3. 心理学の基礎的な概念・用語・研究結果を理解し、日常生活の身近な出来事と関連づけることができる。	◎																		○		○







科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号															
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性									
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3					
22UPWC1153	発達心理学	1	発達心理学の基礎的な概念・用語と、胎児期から高齢期までの発達の概要について理解し、生涯にわたる連続した発達について、心理学における基本的な理論を理解する。	1. 発達心理学の基礎的な概念・用語を理解し、胎児期から高齢期までの発達の概要をイメージできる。 2. 認知機能の発達および感情・社会性の発達について概説できる。 3. 自己と他者の関係の在り方と心理的発達について説明できる。 4. 誕生から死に至るまでの生涯における発達および各発達段階での特長について説明できる。 5. 発達障害等非定型発達について基本的な事項や考え方を概説できる。 6. 高齢者の心理社会的課題および必要な支援について説明できる。 7. 多様な概念を整理し、互いを関連づけながら、日常の身近な現象と結びつけることができる。	◎						○		○	○						
22UPWC1163	知覚・認知心理学(知覚)	1	実証事例を通じて、感覚・知覚のしくみ、およびその障害に関する基礎的な知識を理解する。	1. 人の感覚・知覚等の機序(メカニズム)およびその障害について概説できる。 2. 知覚心理学について基礎的な知識を得る。	◎										○					
22UPWC1173	権利擁護と成年後見制度	1	社会福祉学の価値の一つである人権の尊重を中心に、法の基本原理(成年後見制度含む)を理解する。	相談援助職として法(日本国憲法の基本原理、民法(成年後見制度含む)・行政法)を活用する知識を得るとともに、専門職としての素養を身につける。		◎				○										
22UPWC1183	精神保健A	1	1. 精神の健康についての基本的な考え方と、精神保健学の役割について理解する。 2. 現代社会における精神保健の諸課題について理解する。	1. 精神の健康と、それに関係する要因(ストレス、ライフサイクル、生活習慣など)、および精神保健の概要について説明できる。 2. 精神保健から見た、家族、学校教育などの課題と、それらへのアプローチについて説明できる。	◎	◎	○													
22UPWC1193	精神保健B	1	1. 精神保健学Aに引き続き、現代社会における精神保健の諸課題について理解する。 2. 精神保健の実際、および精神保健福祉士の役割について理解する。 3. 精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。 4. 国際連合の精神保健活動や、他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。	1. 精神保健から見た、勤労者、その他の現代社会の課題と、それらへのアプローチについて説明できる。 2. 精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割について概説できる。 3. 地域精神保健に関する諸活動について説明できる。精神保健に関する今なお残る偏見・差別等の課題を指摘できる。 4. 精神保健に関する専門職種(保健師等)と国、都道府県、市町村、諸団体等の役割、およびそれらの間の連携について説明できる。 5. 諸外国の精神保健活動の現状と対策について概説できる。	◎	◎	○													
22UPWC1203	精神保健福祉の原理A	1	対人援助職が行う相談援助の対象と、相談援助の概要について理解し、精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助の考え方について理解することを目的とする。	1. 「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み(理念・視点・関係性)について理解する。 2. メンタルヘルスの課題をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。 3. 近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。		◎									○					
22UPWC1213	精神保健福祉の原理B	1	対人援助職が行う相談援助の対象と、相談援助の概要について理解し、精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助の考え方について理解することを目的とする。	1. 「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。 2. 精神障害者へのかかわりについて、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。 3. 現在の精神保健福祉士の基本的枠組み(理念・視点・関係性)と倫理綱領に基づく職責について理解する。 4. 精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。		◎									○					

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																	
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																	
					1. 知識・理解		2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性									
1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3												
22UPWC3033	プレプロフェッショナル教育	3	近年の医・歯・薬学、工学・情報学の目覚しい発展により、各分野を融合した医工学研究領域が新たな学問として脚光を浴びている。しかし、医学を理解した工学・情報学系の人材、工学・情報学系を理解した医療従事者は乏しいのが現状である。本科目では専門色が強く、かつ実習を取り入れた講義を行い、医工学領域の即戦力として活躍するために必要な知識を得ることを目的とする。	1. 専門科目では、臨床医工学・情報学の融合分野における最新の知見を学習し、各講義テーマと自らの専門分野・関心領域の知識とを結びつけて考えることができる。 2. 共通科目においては理系（科学）英語の読み方・書き方および統計解析の考え方を学び、演習を通して研究をする上で必要となる基礎的なスキルを身につける。 3. 実習では医療や福祉の現場を体感し、最新の機器等について理解を深めるとともに、講師とのディスカッションから研究倫理・職業観を養う。 4. 本科目全体を通して、臨床医工学・情報学の融合分野への興味関心を喚起しながら自らが進む方向（分野）を考え、将来のキャリア形成の一助とすることができる。					○									○				◎

# 令和4年度入学生用カリキュラムマップ

【心理・社会福祉学科】

【心理コース】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号													
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1. 知識・理解		2. 技能・表現				3. 思考・判断		4. 態度・志向性					
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3		
22UPWP2013	心理学統計法（基礎）	2	心理学で用いられる統計手法について理解するとともに、統計学的基礎概念・実験や調査の方法論的概念等を理解する。	1. 統計に関する基礎的な知識を習得している。 2. 分散分析・t検定・ノンパラメトリック検定に関する知識を習得している。 3. 実験計画に基づき、適切な分析方法を選択することができる。 4. 心理学で用いられる統計手法について概説できる。	○	◎							○					
22UPWP2023	心理学統計法（応用）	2	心理学で用いられる統計手法について理解するとともに、統計学的基礎概念・実験や調査の方法論的概念等を理解する。	1. 統計に関する基礎的な知識を習得している。 2. 多変量解析に関する基本的な知識を習得している。 3. 実験計画に基づき、適切な分析方法を選択することができる。 4. 相関分析・回帰分析・主成分分析・因子分析の分析結果を解釈することができる。 5. 心理学で用いられる統計手法について概説できる。	○	◎							○					
22UPWP2033	心理学実験Ⅰ	2	心理学の基礎的な実験・測定方法に習熟し、3年次以降の卒論研究に資する方法論的基礎（実験の計画・実験方法・統計分析とその解釈など）を形成する。	1. 実証的研究の実践に関する基礎的スキルを習得している。 2. 実験データの収集および処理を適切に行う基礎的スキルを習得している。 3. 実験の計画を立てる基礎的スキルを習得している。 4. 実験の結果について適切な解釈ができ、報告書を作成する基礎的スキルを習得している。 5. 統計に関する基礎的な知識を有し、研究に必要な情報収集スキルの基礎を習得している。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
22UPWP2043	心理学実験Ⅱ	2	心理学の応用的な実験・測定方法を経験し、3年次以降の卒論研究に資する方法論的基礎を形成する。	1. 実証的研究の実践に関する応用的スキルを習得している。 2. 実験データの収集および処理を適切に行う応用的スキルを習得している。 3. 実験の計画を立てる応用的スキルを習得している。 4. 実験の結果について適切な解釈ができ、卒業論文レベルの報告書を作成する応用的スキルを習得している。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
22UPWP2053	心理的アセスメント（概論）	2	心理的アセスメント（心理査定）についての基本的な知識を身につけることを目的とする。心理査定、観察および面接の目的や倫理、方法や関わりなどを身につけ、心理的支援に必要なクライアントを理解する際の観点を学ぶ。また、心理検査の基本的な性質も講義形式で学ぶ。	1. 生育歴や家族の状況等の心理的アセスメントに有効な情報およびその把握の手法等について概説できる。 2. 心理に関する支援を要する者等に対する関与しながらの観察について、その内容を概説することができ、行うことができる。 3. 心理検査の種類、成り立ち、特徴、意義および限界について概説できる。 4. 心理検査の実施、採点および解釈方法をおおよそ理解できる。	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
22UPWP3013	心理的アセスメント（実習）	3	心理的アセスメントを実際に実施し、アセスメントの実施方法、目的、結果の解釈方法を理解する。さらに心理的アセスメントの有効性と限界について学ぶことにより、心理的アセスメントについての理解を深める。	1. 心理検査の適用および実施方法について説明でき、正しく実施し、検査結果を解釈することができる。 2. 適切に記録、報告、振り返り等を行うことができる。 3. アセスメント結果を理解し、適切な報告書を作成できる。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
22UPWP2063	知覚・認知心理学（認知）	2	主に社会的認知研究と日常認知研究について講義する。人間の認知（感情、記憶、思考など）のプロセスおよびその障害について、実証研究を通じ、総合的に理解する。	1. 人の認知・思考等の機序（メカニズム）およびその障害について概説できる。 2. 認知心理学について基礎的知識を得る。 3. 日常生活に認知心理学の知識が役立つことを理解することができる。	◎	○							○					

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																			
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																			
					1. 知識・理解		2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性											
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3								
22UPWP2073	学習・言語心理学 (学習)	2	学習心理学における主要なテーマである条件づけと記憶の理論について理解することを目的とする。	1. 経験を通して人の行動が変化する過程を説明できる。 2. 学習や記憶に関する様々な理論や仕組みを知り、それらを日常場面と結びつけて理解できる。	○									◎	○									
22UPWP4013	学習・言語心理学 (言語)	4	ことばに関する様々な心理学的・言語学的研究事例の紹介と検討を通して、人間が言語を扱う能力や運用のしくみ、言語を習得していく過程などを学ぶ。	1. 人が言語を扱う能力に関する学問的知識を習得している。 2. 言語運用やコミュニケーションに関する学問的知識を有している。 3. 論理的・客観的思考力を身につける。 4. 言語の習得における機序について解説できる。	◎		○	○				○	○		○									
22UPWP4023	感情・人格心理学 (感情)	4	人間の感情に関する理論やメカニズムを学ぶことを通して、感情と行動の関係を理解し、感情心理学の基礎知識を持つことを目標とする。	1. 感情に関する理論および感情喚起の機序 (メカニズム) について概説できる。 2. 感情が行動に及ぼす影響について概説できる。 3. 感情心理学について幅広く基礎的知識を得る。	◎																○			
22UPWP3023	感情・人格心理学 (人格)	3	人格 (パーソナリティ) の諸理論を概観し、人格とは何かを理解し、人格がどのように形成され、表出されるのかについて学び、人格心理学の基礎知識を持つことを目標とする。	1. 人格 (パーソナリティ) の概念および形成過程について概説できる。 2. パーソナリティについて行われてきた基礎的研究について理解し、パーソナリティの種類、特性等について概説できる。 3. 様々な日常場面において、パーソナリティが実際にはどのように影響するかについて学ぶ。	◎										○	○								
22UPWP3033	神経・生理心理学 (生理)	3	人間行動の基本的メカニズムに関する生理学的側面からの理解を目的とし、生理心理学の基礎となる神経系の構造と働きおよび、脳・身体と行動との関係を理解する。	1. 脳神経系の構造および機能について概説できる。 2. 記憶、感情、ストレス等の生理学的反応の機序 (メカニズム) について概説できる。	○																	◎		
22UPWP3043	神経・生理心理学 (神経)	3	脳の構造と正常なはたらきを理解した上で、失語症、失認症、失行症などの高次脳機能障害および発達障害にみられる神経心理症状について学ぶ。これらの理解を通して高次脳機能障害者や発達障害児 (者) の内的世界への洞察を深め、適切な臨床的態度を身につけることを目指す。	1. 脳神経系の構造および機能について概説できる。 2. 高次脳機能の障害および必要な支援について説明できる。 3. 脳障害者や発達障害児 (者) の行動や内的世界への洞察を深め、脳障害や発達障害に関する基礎知識を習得する。 4. 脳障害者や発達障害児 (者) の行動や心理を、その表面的な特性に振り回されるのではなく、本質的課題を見極め、共感的に理解できる能力を養う。	○		○					○	○	◎	○	○	○							
22UPWP2083	社会・集団・家族心理学 (社会・集団)	2	社会心理学ならびに集団心理学の目的である、社会的場面・集団的場面における社会的行動のメカニズムを理解し、予測し、これを制御するために、社会的行動の規則性ないし法則性を理解する。	1. 社会・集団心理学に関する基本的な考え方を理解する。 2. 対人関係ならびに集団における人の意識および行動についての心の過程を説明できる。 3. 人の態度および行動について様々な理論を用いて説明できる。 4. 科学的な視点から人間行動を理解する方法を獲得する。 5. 日常的な行動のメカニズムについて、科学的・論理的に分析することができる。 6. 社会・集団心理学の知識を対人場面の問題解決に適用することができる。	○		○								◎	○	○							
22UPWP4033	社会・集団・家族心理学 (家族)	4	本講義は、社会、集団、家族に関連した心理学について講義を実施する。講義では、家族、集団、文化が人に及ぼす影響について学ぶ。そして、家族や家族の心理について自分の考えを持つことができ、さらに、他の学生とも意見交換を行い、社会、集団、家族心理学について理解する。	1. 家族、集団および文化が個人に及ぼす影響について概説できる。 2. 自分の考えと他者の意見を双方向に交流させることができる。 3. その上で家族や家族心理についての、自分の考えをしっかりと持つことができる。	○			○						○	◎	○	○	○						



科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号															
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1. 知識・理解		2. 技能・表現			3. 思考・判断		4. 態度・志向性								
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3				
22UPWP3053	障害者・障害児心理学	3	各障害について定義（概念）を明確にし、それぞれの障害に特有の発達上の課題、社会生活上で生じてくる様々な問題を理解すること、そして問題解決のための心理学的援助のあり方を理解することを目標とする。	1. 身体障害、知的障害および精神障害について概説できる。 2. 障害者、障害児の心理社会的課題および必要な支援について説明できる。	◎	◎					○		○	○						
22UPWP2093	心理学的支援法	2	心理カウンセリングや心理療法といった心理学的支援の理論と技法について体系的に学ぶ。また、実際の臨床現場で心理カウンセリングや心理療法といった心理学的支援がどのように行われているのかも知る。	1. 心理的支援を要するクライアントの心理学的問題を適切に理解する。 2. 代表的な心理療法ならびにカウンセリングの歴史、概念、意義および適応について概説できる。 3. 訪問による支援や地域支援の意義について概説できる。 4. 心理に関する支援を要する者およびその関係者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができる。 5. 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につける。 6. 心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できる。 7. 心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できる。 8. 心の健康教育について理解できる。	◎		○	○					○	○	○					
22UPWP4043	健康・医療心理学	4	1. ストレスと心身の疾病の関係について理解する。 2. 医療現場における心理社会的課題および必要な支援方法について理解する。 3. 様々な保健活動における心理社会的課題および必要な心理に関する支援について理解する。 4. 災害時などに必要な心理に関する支援について理解する。	1. ストレスと心身の疾病の関係について概説できる。 2. 医療現場における心理社会的課題および必要な支援方法について説明できる。 3. 様々な保健活動における心理社会的課題および必要な心理に関する支援について説明できる。 4. 災害時などに必要な心理に関する支援について説明できる。	○		◎	○				○		○						
22UPWP3063	福祉心理学	3	福祉現場において生じる諸問題について、その背景を心理的・社会的観点から理解する。さらに、社会福祉の対象となる人びとに対する支援を心理学的観点から考えることを目的とする。	1. 福祉現場において生じる問題およびその背景について説明できる。 2. 福祉現場における心理社会的課題および必要な支援方法について説明できる。 3. 虐待についての基本的知識と必要な支援について説明できる。 4. 高齢者の心理社会的課題および必要な支援について説明できる。	◎	◎							○	○	○	○				
22UPWP4053	教育・学校心理学	4	教育現場では日々様々な問題が発生しているため、このような問題の背景を理解し、改善するための援助方法を検討するための心理学的アセスメントについて理解することが必要になる。本講義では、教育現場でできる援助方法を検討し、他機関との連携ならびに学校内でのケース検討会議の方法を理解する。さらに、保護者との関わり方や介入方法を学び、必要な援助方法を考えるとともに、心理社会的課題も考えられる能力を身につける。	1. 教育現場において生じる問題およびその背景について説明することができる。 2. 教育現場に必要な児童・生徒理解に対する心理学的見方や心理学的アセスメントについて理解する。 3. 児童・生徒への心理教育的援助方法について理解する。 4. 教育現場においてチームアプローチ、機関連携、ケース会議などをコーディネートする援助サービスの技能について理解する。 5. 保護者に対する関わり方や介入方法について理解する。 6. 教育現場における心理社会的課題および必要な援助方法について説明できる。	○		◎		○			○	○		○	○	○			



科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性					
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
22UPWP3073	司法・犯罪心理学	3	本講義は、犯罪、非行、犯罪被害および家事事件について理解するため、以下のような講義を実施する。 1. 犯罪、非行、犯罪被害および家事事件についての基本的知識を身につける。 2. 犯罪学の諸理論を理解するとともに、理論を批判的に吟味することで合理的・論理的な思考力を身につける。 3. 犯罪・非行とよばれる反社会的逸脱行動は心理的な要因のみで生じるものではなく、環境的・状況的・社会的な要因や生物学的な負因などが複合して生じることを概説する。 4. 心理学が犯罪・非行領域でどのように応用・援用されているかを概説する。 5. 警察、司法、矯正保護などの刑事政策に関わる諸機関の役割やそこで働く心理系専門職の実務を知る。 6. 精神障害者の犯罪、精神鑑定、裁判員制度、少年司法制度など、関連する諸問題についても概説する。	1. 犯罪、非行、犯罪被害および家事事件についての基本的知識を概説できる。 2. 犯罪学の諸理論を理解するとともに、理論を批判的に吟味することで合理的・論理的な思考力を身につける。 3. 司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について説明できる。 4. 犯罪・非行領域における心理検査の活用や矯正処遇技法の初歩的な実践力を身につける。 5. 犯罪・非行にかかわる心理実務者の仕事を知り、将来の職業選択について考える。 6. 精神障害と犯罪、少年司法、裁判員制度などのテーマを通して、市民としての社会的責任を自覚するとともに、社会的な問題に対する関心を深め、生涯学習力を身につける。	◎		○								○	
22UPWP3083	産業・組織心理学	3	職場や組織における人間行動について理解することを目的とする。さらに、職場において必要となる心理的支援およびその方法について理解する。	1. 職場（キャリア形成に関することを含む）における問題に対して必要な心理に関する支援およびその方法について説明できる。 2. 組織における人の行動について概説できる。	○		◎							○		
22UPWP3093	公認心理師の職責	3	保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働など様々な分野において、心理に関する支援を行う公認心理師の役割について理解することを目的とする。さらに、法的義務や職務上の倫理について理解し、公認心理師に求められる態度や資質の育成を目指す。	1. 公認心理師の役割について理解する。 2. 公認心理師の法的義務を理解し、必要な倫理を身につける。 3. 心理に関する支援を要する者等の安全を最優先し、常にその者中心の立場に立つことができる。 4. 守秘義務および情報共有の重要性を理解し、情報を適切に取り扱うことができる。 5. 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務の内容について説明できる。 6. 自己課題発見・解決能力を身につける。 7. 生涯学習への準備を行う。 8. 多職種連携および地域連携のあり方について修得する。	○		◎			○		○	○	○	○	
22UPWP3103	心理演習	3	心理に関する支援を要する者等の支援についての知識および技能の基本的水準の修得を目的とし、具体的な場面を想定したロールプレイや事例検討を通して学ぶ。	1. 心理に関する支援を要する者等に関する①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援等の知識および技能を修得する。 2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握および支援計画の作成について修得する。 3. 心理に関する支援を要する者等の現実生活を視野に入れたチームアプローチについて修得する。 4. 多職種連携および地域連携のあり方について修得する。 5. 公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解について修得する。	○	○	○	◎	○		○	◎		○	○	













科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																			
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																			
					1. 知識・理解		2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性											
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3									
22UPWS4023	健康・医療心理学	4	1. ストレスと心身の疾病の関係について理解する。 2. 医療現場における心理社会的課題および必要な支援方法について理解する。 3. 様々な保健活動における心理社会的課題および必要な心理に関する支援について理解する。 4. 災害時などに必要な心理に関する支援について理解する。	1. ストレスと心身の疾病の関係について概説できる。 2. 医療現場における心理社会的課題および必要な支援方法について説明できる。 3. 様々な保健活動における心理社会的課題および必要な心理に関する支援について説明できる。 4. 災害時などに必要な心理に関する支援について説明できる。	◎			○			○		○											
22UPWS2033	福祉心理学	2	福祉現場において生じる諸問題について、その背景を心理的・社会的観点から理解する。さらに、社会福祉の対象となる人びとに対する支援を心理学的観点から考えることを目的とする。	1. 福祉現場において生じる問題およびその背景について説明できる。 2. 福祉現場における心理社会的課題および必要な支援方法について説明できる。 3. 虐待についての基本的知識と必要な支援について説明できる。 4. 高齢者の心理社会的課題および必要な支援について説明できる。	○	◎					○	○	○	○										
22UPWS4033	教育・学校心理学	4	教育現場では日々様々な問題が発生しているため、このような問題の背景を理解し、改善するための援助方法を検討するための心理的アセスメントについて理解することが必要になる。 本講義では、教育現場でできる援助方法を検討し、他機関との連携ならびに学校内でのケース検討会議の方法を理解する。さらに、保護者との関わり方や介入方法を学び、必要な援助方法を考えるとともに、心理社会的課題も考えられる能力を身につける。	1. 教育現場において生じる問題およびその背景について説明することができる。 2. 教育現場で必要な児童・生徒理解に対する心理学的見方や心理的アセスメントについて理解する。 3. 児童・生徒への心理教育的援助方法について理解する。 4. 教育現場においてチームアプローチ、機関連携、ケース会議などをコーディネートする援助サービスの技能について理解する。 5. 保護者に対する関わり方や介入方法について理解する。 6. 教育現場における心理社会的課題および必要な援助方法について説明できる。	◎					○	○	○		○	○	○								
22UPWS2043	ソーシャルワーク論ⅠA	2	1. 相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解する。 2. 相談援助の対象について理解する。 3. 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。 4. 相談援助の実際について理解する。	1. 人と環境の交互作用について説明できる。 2. 援助の対象について説明できる。 3. 相談援助の過程について説明できる。 4. 相談援助における援助関係について説明できる。 5. 相談援助における面接技術について説明できる。															◎		○			
22UPWS2053	ソーシャルワーク論ⅠB	2	1. 相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解する。 2. 相談援助の対象について理解する。 3. 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。 4. 相談援助の実際について理解する。	1. 相談援助の過程について説明できる。 2. 相談援助におけるアウトリーチ、社会資源の活用・調整・開発、ネットワークについて説明できる。 3. 相談援助における記録の種類や方法について説明できる。 4. 相談援助と個人情報の保護の意義と留意点について説明できる。 5. 相談援助における情報通信技術（IT）の活用について説明できる。															◎		○			
22UPWS3033	ソーシャルワーク論ⅡA	3	1. 相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。 2. 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。 3. 相談援助の実際について理解する。	1. 集団を活用した相談援助について説明できる。 2. 相談援助における様々な実践モデルとアプローチについて説明できる。															○	◎		○		
22UPWS3043	ソーシャルワーク論ⅡB	3	相談援助における事例分析の意義と方法およびソーシャルワークによる支援の実際について理解する。	社会的排除、虐待、DVなど危機的状況にある相談援助事例についてソーシャルワークの視点から分析し、多様な理論を応用しながら問題解決に向けた支援を組み立てる基本的力量を身につける。															○	○		○	◎	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号															
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志向性												
1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3										
22UPWS2063	医療ソーシャルワーク	2	1. ソーシャルワークの視点とスキルは活躍する場によらず普遍的である。その一方で、的確な援助のためには分野固有の価値やシステムを意識せねばならないことを知る。 2. 今日、多くの事例が保健医療と関わりを有する実態を踏まえて、医療ソーシャルワーカーの倫理、実践、職種間連携のあり方への理解を深める。	1. 医療ソーシャルワークの基礎知識や援助技術について学ぶ。健康かつ文化的な生活を維持・増進させるための医療福祉サービスの広がりをも具体的に想起できることが目標である。 2. 社会福祉の理論や実践が、現代の医療現場における困難や葛藤を緩和できる可能性について認識を新たにする。	◎															
22UPWS4043	虐待とソーシャルワーク	4	「虐待」が社会的病理であることに理解を深める。「虐待」の心理的・社会的背景を理解し、人権擁護の視点を養う。	「子ども」「高齢者」「障害者」の領域から虐待の背景を吟味し、防止と予防の制度的課題を考える力を身につける。虐待対応におけるソーシャルワークの専門性を吟味する力を身につける。	○						◎	○	○							
22UPWS3053	スクールソーシャルワーク	3	多くの子どもたちは様々な問題に直面している。それらの問題に対し、学校を基盤に福祉的なアプローチで子どもたちの成長発達を促す環境を整えることがスクールソーシャルワークである。本授業では、日本の子どもたちが抱える問題について知り、それらをスクールソーシャルワーカーがどのような視点で捉え、どのように介入し、改善・解決を試みるのかについての理解を深める。	1. 学校現場にソーシャルワーカーを導入する意義を説明できる。 2. スクールソーシャルワークの理念を説明できる。 3. 近年の子どもたちを取り巻く環境や問題・課題について説明できる。 4. スクールソーシャルワーク実践に関連する実践理論・モデルおよび支援方法を説明できる。 5. スクールソーシャルワークのミクロ・メゾ・マクロレベルの実践について説明できる。	○						◎	○								
22UPWS2073	ソーシャルワーク演習 I A	2	1. ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士および精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。 2. ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。 3. ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。 4. ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。	1. 自己覚知の必要性和方法を説明できる。 2. ソーシャルワークに必要な基本的なコミュニケーション技法と面接技法を説明できる。 3. ソーシャルワークに基本的なコミュニケーション技法と面接技法を実践できる。 4. ソーシャルワーク実践に必要な価値基盤と倫理を説明できる。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○						
22UPWS2083	ソーシャルワーク演習 I B	2	1. ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。 2. 社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。 3. 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。 4. 地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。 5. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。	1. それぞれの事例について必要な理論と技術を具現化できる。 2. それぞれの事例に必要な知識と技術を習得する。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○						

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志向性						
1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3				
22UPWS3063	ソーシャルワーク演習ⅡA	3	<p>1. ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。</p> <p>2. 社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。</p> <p>3. 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。</p> <p>4. 地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。</p> <p>5. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。</p> <p>6. 事例検討や事例研究を実際に行い、今後の実習に向けてその意義や方法を具体的に理解する。</p> <p>7. 実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。</p>	<p>1. ソーシャルワークに必要な知識と技術をロールプレイを通じて実践できる。</p> <p>2. 事例検討においてソーシャルワークの価値規範や倫理的な判断を実践できる。</p> <p>3. 実習Ⅰでの体験もふまえ、支援を必要とする人の包括的支援について分野横断的な視点から考えることができる。</p> <p>4. ソーシャルワークの対象と展開過程についてディスカッションを通して理解を深める。</p>		○	○	○	○	◎	○		○	○
22UPWS3073	ソーシャルワーク演習ⅡB	3	<p>1. ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。</p> <p>2. 社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。</p> <p>3. 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。</p> <p>4. 地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。</p> <p>5. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。</p> <p>6. 事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。</p> <p>7. 実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。</p>	<p>1. コミュニティワーク実践に必要な知識と技術を習得し、具現化できる。</p> <p>2. 地域福祉における要支援者を中心とした分野横断的な包括的支援について実践的に理解し、説明できる。</p> <p>3. 地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解し、説明できる。</p> <p>4. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解し、説明できる。</p>		○	○	○	○	◎	○		○	○



科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性	
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2
22UPWS4053	ソーシャルワーク演習Ⅲ	4	<p>1. ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。</p> <p>2. 社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。</p> <p>3. 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。</p> <p>4. 地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。</p> <p>5. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。</p> <p>6. 実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。</p> <p>7. 実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。</p>	<p>1. ソーシャルワークに必要な知識や技術を事例検討において応用できる。</p> <p>2. 事例検討においてソーシャルワーカーとしての倫理的判断ができる。</p> <p>3. 事例検討において総合的かつ包括的に支援を考えることができる。</p> <p>4. ミクロ・メゾ・マクロのレベルにおけるソーシャルワークについて、「包括的な相談支援体制の構築と「住民主体の地域課題解決体制」の構築という課題に関連づけて把握し、実践に向けて必要な力量について説明できる。</p>	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	
22UPWS2093	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	<p>1. ソーシャルワーク実習の意義について理解する。</p> <p>2. 社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。</p> <p>3. ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。</p> <p>4. 実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。</p>	<p>1. ソーシャルワーク実習の意義および目的を説明できる。</p> <p>2. 利用者、実習現場、専門職、関連制度等に関する基本的理解をする。</p> <p>2. 実習生としての自覚をもち、実習の事前学習に積極的にのぞむことができる。</p> <p>3. 実習配属先についての学習課題を設定・整理することができる。</p> <p>4. 実習の事後学習として実習体験を理論的・体系的に整理することができる。</p>	○		○	○					◎	
22UPWS3083	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3	<p>1. ソーシャルワーク実習の意義について理解する。</p> <p>2. 社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。</p> <p>3. ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。</p> <p>4. 実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。</p>	<p>1. 配属先についての事前学習を主体的におこない、学習課題を整理したうえで、実習計画書を作成することができる。</p> <p>2. 実習計画書に基づいた現場実習を円滑におこない、実習前・実習中・実習後に必要な指導を受けることができる。</p> <p>3. 現場実習を通して、専門職に必要とされる基本的価値・倫理、知識、技術について理解し、実習体験の成果と課題を整理・共有し、報告することができる。</p> <p>4. 実習を通して具体的な体験を通して、理論と実践を結びつけながら、ソーシャルワークの専門性について考察することができる。</p>	○		○	○				◎	○	













科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性	
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2
22UPWS4083	ソーシャルワーク演習(専門)C	4	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。また、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。	以下の精神保健福祉の援助技術について、事例等を用いて習得する。 ・ソーシャルワークの過程を通じた援助(ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア)・個別面接・グループワークの展開・ケア会議や関係者会議のコーディネートとマネジメント・リハビリテーションプログラムの実施(行動療法、作業療法、回復支援プログラム)・アウトリーチ、コミュニティソーシャルワークの展開・社会福祉調査の実施、計画策定、評価、資源創出、政策提言・普及啓発活動、人材育成(住民への啓発、ボランティア養成、実習生指導)・記録(個別支援記録、公文書作成、業務(日誌・月報等)の記録、スーパービジョンのためのレポート作成等	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
22UPWS3193	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3	ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について理解し、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	下記の項目について理解し説明できる。 ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導における個別指導および集団指導の意義、精神保健医療福祉の現状(利用者理解を含む。)に関する基本的な理解、実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解、精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体験	○		○	○					◎	
22UPWS4093	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ	4	ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習に係る個別指導および集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。	下記の項目について理解し、取り組める。 実習先で必要とされる精神保健福祉士としてのソーシャルワークに係る専門的知識と技術に関する理解、精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解、実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解、「実習記録」への記録内容および記録方法に関する理解、実習計画の作成・実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成、実習報告会	○		○	○					◎	
22UPWS3203	ソーシャルワーク実習Ⅲ	3	地域に生活する精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握し、精神保健福祉援助ならびに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	地域の障害福祉サービス事業を行う施設等の実習を通して、下記の視点を学ぶ。 利用者やその関係者等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成、支援計画の作成、利用者やその関係者との支援関係の形成、利用者やその関係者への権利擁護および支援とその評価、精神医療・保健・福祉に係る多職種連携の実践、精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解、施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解、施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実践、地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ・ネットワーキング・社会資源の活用・調整・開発に関する理解	○		○	○		○		○	◎	
22UPWS4103	ソーシャルワーク実習Ⅳ	4	精神科医療を利用する精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握し、精神保健福祉援助ならびに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	1. 精神科病院において実習を行う学生は、下記の項目について実践できる。 入院時または急性期の患者およびその家族への相談援助、退院または地域移行・地域支援に向けた患者およびその家族への相談援助、多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助 2. 精神科診療所において実習を行う学生は、下記の項目について実践できる。 治療中の患者およびその家族への相談援助、日常生活や社会生活上の問題に関する患者およびその家族への相談援助、地域の精神科病院や関係機関との連携を通じた援助	○		○	○		○		○	○	◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号															
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1. 知識・理解		2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性							
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3					
22UPWS4113	社会福祉特講	4	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験に合格する学力を修得する。	1. 相談援助の基盤や理論が説明できる。 2. 社会調査の方法や留意点について説明できる。 3. 人体の構造・機能・疾病について説明できる。 4. 心理学理論や心理的支援について説明できる。 5. 社会理論と社会システムについて説明できる。 6. 更生保護について説明できる。 7. 地域福祉の理論と方法について説明できる。 8. 高齢者に対する支援と介護保険制度について説明できる。		○											◎			
22UPWS3211	専門演習 I A	3	卒業論文執筆に向けて、その研究内容を深めることを目的とする。	各自の問題意識を深めるとともに、卒業論文や卒業にむけての大きな研究テーマを見出す。		○	○	○			○	○	○	◎	◎					
22UPWS3221	専門演習 I B	3	卒業論文執筆に向けて、その研究内容を深めることを目的とする。	各自の問題意識を深めるとともに、卒業論文や卒業にむけての大きな研究テーマを見出す。		○	○	○			○	○	○	◎	◎					
22UPWS4121	専門演習 II A	4	卒業論文執筆に向けて、その研究内容を深めることを目的とする。	各自の問題意識を深めるとともに、卒業論文や卒業にむけての大きな研究テーマを見出す。		○	○	○			○	○	○	◎	◎					
22UPWS4131	専門演習 II B	4	卒業論文執筆に向けて、その研究内容を深めることを目的とする。	各自の問題意識を深めるとともに、卒業論文や卒業にむけての大きな研究テーマを見出す。		○	○	○			○	○	○	◎	◎					
22UPWS4141	卒業論文	4	学業の最終的な仕上げとして、卒業論文を執筆する。	1. 各自の研究テーマについて、卒業論文としてまとめることができる。 2. 自らの研究成果をプレゼンテーションにより、他者に伝えることができる。		○	○	○	○		○	○	○	◎	◎					